

MICEビジネスを創造する

# EventBiz

Vol.3

2016 Summer  
[イベントビズ]

ASK FOR  
TODAY'S  
SPECIAL!



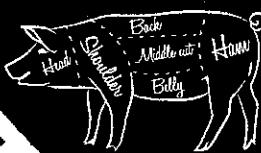
Food Festival

EVERY SUNDAY 8:00 - 12:00

QUALITY PRODUCTS

## 食イベントのレシピ

特集



アジアの展示会の有効活用

QUALITY CUTS



展示会 MICE

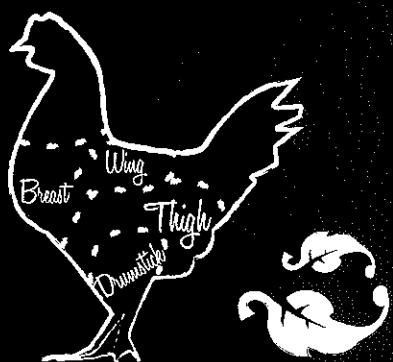
[EventBiz]にリニューアル

Rib Eye	16.90
Pork ribs	11.00
Pork Chop	9.90
Lamb chop	13.90

Farm Fresh  
CHICKEN

Hotwings - 4 pc..... 3.50

Chicken breast ..... 5.50



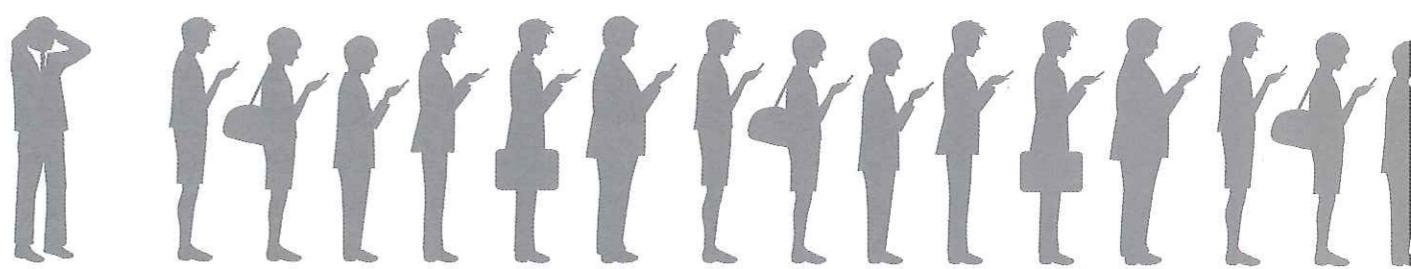
Best HOTWINGS in town!

Since 2015

# 必要なんです、トイレ

## ～屋外イベントのトイレ事情～

10年前に比して格段に増えた食イベントだが、「食すれば、排す」のは自然の摂理だろう。そこで欠かせないのがトイレだが、屋外でトイレに行こうと思っても、たいていは行列ができていたり、汚い個室でどんよりした気持ちになる。だが、ちょっと視点を変えてみると、イベント現場におけるトイレ事情は、奥深い世界が広がっているのだ。



### 屋外イベントのトイレの現状

#### 最近のトイレ事情

いまやトイレは温水シャワーがついた便器(温水洗浄機能付様式便所)が当たり前の時代であり、オフィスや自宅のトイレは“快適空間”といえる。20年前と比していかがであろう。われわれの日常生活の中でトイレ空間における快適・清潔さを考えると、暗い・汚い・臭いの代名词であったトイレは明らかに進化し、その種類や形態も多様化<sup>※1</sup>している。

さて、それでは「公衆便所」はどうか。開国之地・横浜が発祥の公衆便所<sup>※2</sup>ではあるが、室内トイレから一転し、現代でも臭い、汚いという印象は完全に払拭できていない。し

かし、快適さを向上させる取り組みは昭和50年代から本格的にはじまつており、トイレに関わる各団体の啓発や市民活動が活発化した<sup>※3</sup>。以来、公園・駅などの公衆便所に設置されている便器、便座の進化をはじめ、しゃれたデザインをほどこしたトイレ建屋などの開発など、時代とともにトイレ空間の快適さは飛躍的に向上している。

快適さへの追求は続く。屋外でのトイレといえば仮設トイレや簡易トイレが挙げられるが、その普及・開発も進んでいる。特に日本では阪神・淡路大震災を契機に、災害用トイレの大切さもライフラインと同様に重視されるようになり、東日本大震災や先日発生した熊本地震でもこれま

での教訓が活かされ、被災地で利用されている。

### 屋外イベントの現状

それでは屋外の食イベントやフェスティバル、スポーツイベントで見かけるトイレ事情はどうだろう。

迷惑な話ではあるが、大型イベントの開催地の近くにコンビニや大型商業施設があれば、清潔な水洗トイレを求めて併設する来場者が多いのは事実である。さらに数十万人規模の大型イベントになると、公衆便所や商店街の店舗、近隣ビルを管理する事業者らが連携し、地域ぐるみでトイレ数を確保して対応する場合もあるだろう。が、このように皆でトイレ環境を整えながらイベン

トを盛り上げる取り組みは、全国的な知名度の高い札幌の「雪祭り」や「YOSAKOI ソーラン祭り」など<sup>※4</sup>、地域密着型イベントに限られてしまい、数少ない。多くの屋外イベントでは複数台にわたり設置される仮設トイレで長い列に並ぶことになる。

今後、ぜひ待ち時間にこの仮設トイレを注意して見て欲しい。注目点は、例えは設置方法だが、従来からよく見かける排泄物を真下の貯蔵タンクに落とすタイプのトイレもあれば、特殊な技術を使って離れた場所に排泄物を移動させ貯めるタイプのもの、あるいは直接下水管とつなぎ排泄物をそのまま流すタイプなどあり、臭いの違いの差に気づくに違いない。また、仮設トイレは便座と

それを囲む壁の構造もほぼ同じに見えるが、材質や大きさも微妙に違うのである。

場合によっては常設トイレと変わらないほど豪華なトイレも見受けられるが、短期間で設置、撤去しなければならない屋外イベント会場では、経費の面で折り合いがつかない場合が多く、作りこんだトイレに出会う機会は少ない。

### 進化し続ける仮設トイレとイベント現場での課題

#### 建設現場から普及して

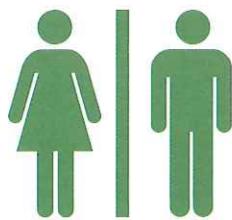
国内では文化向上を目的としてトイレ空間の快適さを求める動きが活発化しているが、この動向は常設トイレのみならず仮設トイレも同様で

あり、この足がかりとなったのは今年4月に制定された「女性活躍推進法」であり、そこにヒントが隠されている。

というのも、2013年から安倍政権が成長戦略として打ち出した「女性の活躍」を機に、建設業界では女性活用のための取り組みを模索してきた背景がある。建設業界は今後5年以内に女性技術者や技能者を倍増させるため、国交省と建設業5団体が「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」を2014年8月に策定。この行動計画を指針として、現場における女性用トイレや更衣室の整備を促進し、職場環境の改善を図る動きが加速した。

言うまでもなく国内の仮設トイ

### 災害用トイレの分類



©NPO法人日本トイレ研究所(災害用トイレガイドWebより転載)

\*1 トイレの種類= トイレの種類は多く、呼称はさまざまであり、各人が抱くイメージもバラバラだ。ここではトイレ研究所が実際に開発されている製品をベースに分類した「災害用トイレの分類」を掲載した。 \*2 谷直樹・遠州敦子『便所のはなし』(鹿島出版会、1987年)P.86-87) \*3 山下了『現代のトイレ事情』(東京法令出版、2000年、以下『現代のトイレ事情』)P.17 \*4 「現代のトイレ事情」PP.234-256

の主要マーケットは建設現場であり、短期間で設置・撤去を繰り返すイベント現場の環境改善はまだ先のこと、次のステップである。それゆえ、仮設現場におけるトイレのビジネス市場という観点で考えると、川上である建設現場の環境整備や技術開発が進めば進むほど、川下のイベント現場のトイレは快適度が増すのである。このように進歩しづらいイベント現場ではあるが、すでに変化の兆しはある。

例えば、女性専用トイレの開発ははじまっており、札幌市建設局が「札幌新道 開通記念ウォーキングイ

ベント」で利用し好評だったという。また、「北九州マラソン2016」では「災害用マンホールトイレ」<sup>※5</sup>が使われた。この事例では、イベントを通じてマンホールトイレの使い方を知つてもらうことで、万一の災害時の備えと、地域防災力に役立つというものの。いわばマラソンイベントが防災訓練となり、イベントの新たな利用価値を見いだした。

#### 建設現場におけるトイレとコストの関係

屋外イベントに関わる運営プロデューサーや施工スタッフにトイレにまつわる現場の事情を聞くと、「花

火大会やスポーツイベントでは必ずといっていい程、反省会ではトイレの話題が出る」という。コストの問題があつてなかなか来場者サービスを優先した質の向上につながりづらい傾向もあるようだ。

人間の排泄量は、「1人1日あたりウンコが100～160グラム、オシッコは1～1.5リットルとなります。年間平均になると1人1日当たり1リットル」<sup>※6</sup>というように、ほぼ決まっている。そのため、排泄量を想定すれば、どれくらいのトイレ数が必要なのか、予測することは可能である。特にイベントの現場では、この予測の成否はプロデューサーの腕の見せ所となり、来場者評価につながるようだ。

例えば、イベントの開始前に来場者総数を1万人と予測するならば、女性1回3分、男性1回1分とした場合、男女比を定めて何台のトイレを設置すれば良いのかといった予測が必要になる。この予測値を誤ると、トイレの数が足りなければ大行列が生じるし、トイレの数が多すぎると利用率が下がってトイレに余分な経費を注ぎ込むことになる。

さらにトイレの設置方法もコストに直結する。なぜならば、仮設トイレでは排泄物をどうするかという問



「札幌市新道 開通記念ウォーキングイベント」にて（©札幌市建設局）

<sup>※5</sup>「マンホールトイレ」とは、あらかじめ避難地に下水道管を引き込み、災害時にはマンホールの蓋を開け、その上に組立式のトイレを設置して使用するトイレ。<sup>※6</sup> 中井多喜雄「トイレの科学」（日刊工業新聞社、2010年）P.68

食のイベント・展示会へ 冷蔵ケース・厨房機器・フードサービス機器 レンタル

**NIPPOH 日豊機工株式会社**

豊富な品揃えと、万全の搬入体制で、あらゆるニーズに迅速対応いたします

本社：〒331-0052さいたま市西区三橋6-1737-1  
TEL.048-624-5777 FAX.048-624-6378  
東京営業所：TEL.03-5377-7060 FAX.03-5377-7061

<http://www.nippoh-kiko.co.jp>

日豊機工 検索

題があり、タンクに溜める場合は業者に頼んでくみ取りしなければならないし、下水に流す場合は行政の許可や設置工事の手間がかかることになる。要は、仮設トイレを仮設として使うのか、仮設トイレを常設として使うのか、というように、利用用途によってトイレ空間に必要な各パーツを組み合わせていくことから、トイレの設置目的が明確でないとコストは大きく変動してしまう。

また、トイレットペーパー不足は誰もが経験するが、クリーニングの回数も大問題であり、清掃スタッフの人数や配置なども屋外イベントでは忘れてはならない大事な要点といふ。

\*\*\*

食イベントを含む屋外イベントでは仮設トイレが主流であり、今後、この分野における環境改善や進化が



「北九州マラソン2016」では災害用マンホールトイレが使われた。また、利用したランナーへのアンケートでは、9割以上から「大変良い・良い」との感想が出され、洋式で臭いもなく快適だという（©北九州市上下水道局）

期待されているのは言うまでもない。

とはいえたイベント現場におけるトイ

レへの意識差は大きく、イベントの作り手側の視点からすればコストありきで考える人が多い。が、その限られた環境下でも便利で、快適なトイ

レを造りだし、利用者の利便性を高める創意工夫が諸処にあることも知ってほしい。

2020年に向けイベント需要が増大する中、イベント現場におけるトイ

レ事情は急速に進化する可能性を秘めているのだ。

#### 女性専用トイレ フラワートイレ

日野興業(株)  
営業企画部部長 谷本亘氏



#### 災害対策用トイレ マンホール直結型 組み立てトイレ

株総合サービス  
営業部 門坂淳一氏



「建設現場が変われば、イベントの現場も変わります」と語るのは、仮設トイレ業界最大手の日野興業の谷本亘氏。イベント現場への仮設トイレの出荷件数は年々伸びており、その需要は拡大傾向にあるという。だからこそ谷本氏は仮設トイレの最先端をいく建設現場での環境づくりや製品開発が進めば、イベント分野でも喜ばれるアイテムがさらに増えるのではないかと予見した。

同社では建設現場での経験を通じて女性専用仮設トイレ「フラワートイレ」を企画・開発し、建設現場のみならずイベントの現場でも女性専用トイレの普及を目指している。谷本氏は「仮設トイレを変えよう」をキャッチフレーズに社内プロジェクトを発足しました。フラワートイレの役割は工事やイベント

の現場で、女性が安心して使用できるトイレを届けるに留まらず、より快適な空間を現場に実現することが目的。女性や子どもから好評で、喜ばれています」と話す。

災害時以外に、マンホールトイレの使い道としてイベントでの活用も推進している。というのも、大勢が集まるイベント時に災害用トイレを利用することは、トイレの組み立て方法や携帯トイレの使用方法を知る手段として有効である。イベントの参加者および主催者は、イベントと同時に防災訓練をすることになるから、

萬一の災害時の備えと、地域防災力の強化にもつながる取り組みとして自治体からも注目されている。

同社は災害用トイレの技術開発が評価され、2015年9月に日本トイレ大賞（防災担当大臣賞）を受賞した。

